

お待たせしました

先生の本屋さん、第3弾

純ちゃん書房いよいよ開店!

今回は教務主任「齋藤純先生(物理)」です。

読書の目的に合わせて3つの棚を用意していただきました。

年度当初、新入生に向けて学校での過ごし方や学校の決まりなどを、わかりやすく説明してくれる教務主任。3学期の初め、最終学期へのラストスパートを上手にかけてくれる教務主任。先生の話聞いた生徒の皆さんは、「具体的で、これなら実行できそう」との感想を持った人も多いのではないですか。そう！齋藤先生の話は具体的なのです。それもとびきり実践的。だからやってみたくなる。やれそうだと思う。

そんな先生の話の裏付けとなる本を今回紹介してもらいました。それに加えて、趣味の本も。齋藤純先生の心の中がちよっぴりのぞけた気がします。

では簡単に紹介します。

①人生を考える棚・・・「なぜ僕らは働くのか」(池上彰監修 学研プラス)

この本には「君が幸せになるために考えてほしい大切なこと」という副題がついています。マンガやイラストでとても読みやすく、巻末の参考文献も充実。多くの人々の協力のもと出来上がったこの本は、純先生が選んだだけあってとても具体的。純先生の話は、高校生活に焦点を絞った内容が中心ですが、その先には実社会に出ていく皆さんが想定されているのです。そんな気持ちで純先生の話を読み返して見ましょう。授業の受け方や結果の振り返り法など、大学生になっても社会人になっても使える、汎用性の高いものなのです。



②日常を見直す棚・・・「本当の「頭のよさ」ってなんだろう？」(齋藤孝著 誠文堂新光社)

この本が純先生の話の元になっているそうです。全8章。「本当の頭のよさってなんだろう？」の第1章から、「生きていくってどういうこと？」の第8章まで、君たちが一度は抱いた疑問をテーマとしています。勉強するのは当たり前、学校へ行くのも当たり前、そんな当たり前正面から向き合っているのがこの本です。どの章からでも今の自分が最も気になるところから読んで見たらどうでしょう。今を見直すきっかけになるかもしれません。この本の内容をアレンジして学年集会や始業式で話をしてくれていたんですね。具体的でわかりやすい話の裏には「そもそも～ってなんだろう」という当たり前に向き合う視点があったということでしょうか。さすが物理の先生。ものが落ちるのも、波が立つのも、数式化しないと気がすまない性分なのですから。自然界の当たり前を見つめる眼力が選んだ1冊、お見事です。

③心をリフレッシュさせる棚・・・「居眠り聲音江戸双紙シリーズ」(佐伯泰英双葉文庫)

何と！時代小説。正直ビックリしました。この企画のため「紹介したい本をお持ちください」とお願いしたところ、このシリーズ本を20冊ぐらい持って来られた時には。しかも学校図書館ですよ、この手の本は置いてありません。純先生曰く、この本を読んでいると心が優しくなれるそうです。こればかりは読んでみないと始まりません。気になる人は近所の公立図書館で借りてみてください。気分転換、リフレッシュのための本！案外大事です。本に限らず、皆さんは独自のリフレッシュ方法、持っていますか？



さあ皆さん！純ちゃん書房開店で～す。純先生の話は毎回10分ほどですが、その話の裏側を私たちに明かしてくれました。「教務の話って勉強や成績のことでしょう」と思って聞いていた皆さん、その狭い視野のためどれほど大事な情報、いや純先生の思いを聞き流していたか、もったいないと思いませんか。でも大丈夫、今からでも遅くない。純ちゃん書房に来てください。お待ちしております。

齋藤純先生ご自身による紹介動画も校内のサイネージで配信中！！

